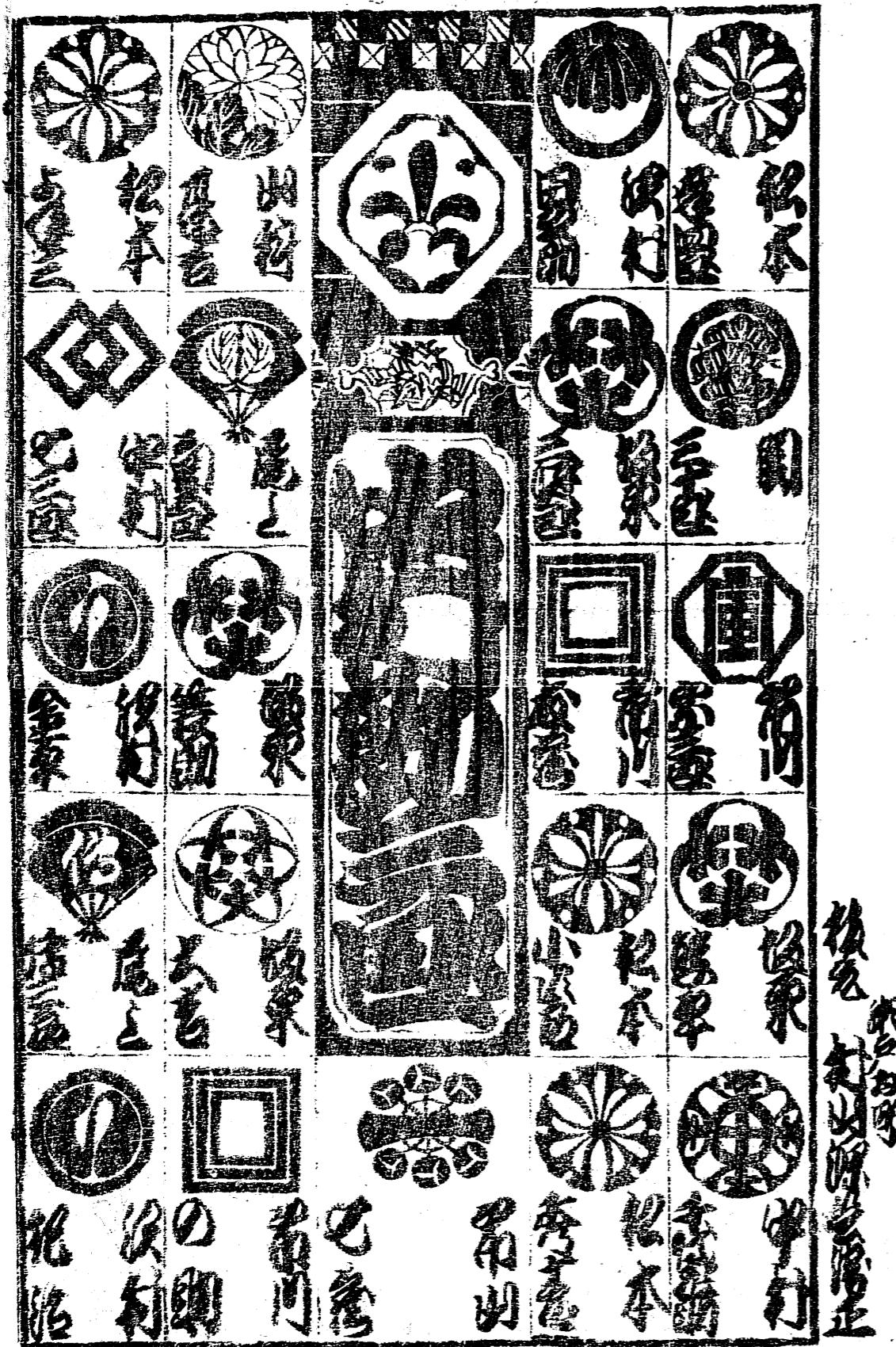


近世 22.7-05-034





近頃は、小説と戯文の
書物が、多く出でてゐる。その中で、
最も興味あるのは、『本川』である。
これは、明治二年九月に、大蔵省の
官吏、井上義徳が、著した小説である。
この小説は、明治時代の社會状況を、
當時の言葉で、現実的、正確に記述して
ゐる。その筆法は、當時の讀物によく
見られる、簡潔で、明快なものである。
また、その内容は、當時の社會問題を、
如實に反映してゐる。たゞ、その筆法は、
當時の讀物によく見られる、簡潔で、明快なものである。

